



(様式2)

平成30年 1月 22日

京丹後市議会議長 様

会派名 新星会
氏名 金田 琮仁

調査・研究等 報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 日程 平成29年11月 30日 (木) ~平成29年12月 1日 (金)
- 2 場所 参議院議員会館 1階講堂 東京都 千代田区 永田町 2-1-1
国土交通省
- 3 目的 ・「山陰近畿自動車道」の更なる道路整備推進を訴えるため、「山陰近畿自動車道建設促進議員連盟」と三府県による「山陰近畿自動車道整備推進協議会」が合同で「山陰近畿自動車道整備推進決起大会」の開催に伴い、地元議員として要望活動を行った。
- 4 該当する政務活動費の用途項目
要請・陳情費
- 5 支出経費の内訳と金額
70,520円・・・資料1
- 6 参加議員名
金田琮仁、 櫻井祐策
- 7 調査・研究成果の概要、所見
研修報告書・・・資料2、

日 時 平成29年11月30日(木)～平成29年12月1日(金)
場 所 参議院議院会館 1階講堂
国土交通省道路整備局

1、要請・陳情の目的

日本海国土軸の形成に於ける高規格幹線道路の早期実現のため、山陰近畿自動車道整備推進決起大会に出席し、3府県がもたらされるストック効果並びに予算確保を訴える。決起大会に参加することで、国会議員と地方議員が団結して取り組む意識を高揚する場とし、地元議員として要望活動を行う。

2、要請・陳情活動の内容

主催者側から、山陰近畿自動車道整備推進議員連盟会長の石破茂衆議院議員をはじめ、副会長の末松信介参議院議員、二之湯智参議院議員、事務局長の谷公一衆議院議員、京都府、兵庫県、鳥取県の各知事、三府県の議会議員などが出席した。来賓として、国土交通省の石川雄一道路局長、池田豊人近畿地方整備局長などが出席した。また、京丹後市の三崎市長をはじめ、沿線市町の首長や地元関係者も多く出席し盛大に行われた。

まず、山陰近畿自動車道の早期実現に対して「山陰近畿自動車道整備推進協議会」「山陰近畿自動車道整備推進三府県議会議員の会」「鳥取豊岡宮津自動車道整備推進協議会」「但馬・地域高規格道路推進協議会」「丹後・地域高規格道路推進協議会」より要望書の手交が行われた。要望書は以下の4つが必要課題として上げられた。

- ①大宮峰山道路の事業を推進すること
- ②大宮峰山インターチェンジから網野インターチェンジまでを早期事業化すること
- ③網野インターチェンジから府県境までの区間について本調査を実施すること
- ④道路財特法の補助率等の嵩上げ措置について、平成30年度以降も継続すること

その後、意見発表がなされ、三府県知事が地域での取り組みや成果など意見を述べ、国へ更なる高規格道路への経済効果の期待を述べた。地元選出の国会議員も現状と現在の取り組み内容や動きなどの説明がなされた。また、三府県

の地元経済人の声として、京都府代表では株式会社丹後王国代表取締役社長伊藤真人氏が発表した。内容は、昨年京丹後市に初めて山陰近畿自動車道が大宮まで開通したことによる観光客の増加など、その多大な効果について述べた。そして、今後の更なる延伸に向けて隣接する府県や市町村との協力のもと、人や物流が活発になることで、地元への経済効果を期待する旨を述べた。最後には、地元市町長からの意見発表がなされ、「がんばろう」三唱で閉会した。



翌日の12月1日は、国土交通省道路整備局石川道路局長へ、要望書を提出した。大宮峰山間の早期完成に向けた予算の確保と合わせ、峰山ICから網野ICまでの国による早期事業化と、その先の久美浜、兵庫県境までの区間についての、ルート決定に向けた本格調査の実施を申し入れた。



3、所 見

一昨年(2019年)の10月に野田川大宮道路が完成し供用開始となった。南部では、昨年4月に新名神高速道路の城陽IC・八幡京田辺IC間が開通したことで、ようやく京都府の南北(木津川市―京丹後市)が高速道路で結ばれ、観光客の増加など、丹後地域に大きなストック効果をもたらした。山陰近畿自動車道の延伸の先は、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道、山陰自動車道と連結し、地域間交流の促進や防災ネットワークの構築など、多面的な要素があることから、三府県の地域経済の発展に寄与する重要な幹線道路である。これらの高速道路網の発達には市民にとって便利さだけではなく、日常生活に与える喜びや、また地域に新たな可能性を生み出すことにもつながる。

しかし、山陰近畿自動車道は、日本海国土軸を形成し高規格幹線道路に匹敵する重要な道路であるにも関わらず、日本海側唯一の「空白地帯(ミッシングリンク)」が存在する。現状では整備が遅れていることから、一日も早い全線開通が期待されている。この未計画な空白地が京丹後市に存在していることも事実として把握しなければならない。

このような課題を少しでも前に進めるべく、地元から声を上げる必要がある。道路が単に便利さだけではなく、市民にとってどんなメリットがあるのか知ることが大切である。まずは目に見える効果として、交流人口が増える観光の集客力につながると考える。次に企業誘致や企業の輸送路として、道路交通や海上交通による輸送の可能性もある。

また、医療拠点を結ぶ命のネットワーク網の確保につながることである。医療機関に限られる地域医療にとって非常に大切な道路である。また、大規模災害に備えたりダンダンシーの確保でも道路がつながることの重要性が感じられる。近年は多発する自然災害において、地域住民の安心安全を確保するため高速道路網の整備は命の道としても重要である。今後、地域は超高齢化社会へと突入していく。医療・災害と地域住民を守る一つの手段として、地域住民の命を守るという住民保護の視点で地域の道路整備は強く求めていかなければならないと感じた。

